

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	舞台演技講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位					
科目設置学科コース	声優養成コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験41年 1981年より俳優として活動。1997年より声優としても活動。コミカルな役から威厳ある悪役まで演じる。外国映画における吹き替えの出演も数多い。									
授業概要										
役を演じるということ、さまざまな観点から考察し、学ぶ。										
到達目標										
舞台上で演技をする為に必要な空間の共有や、相手とのやり取りの方法を習得する。										

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	発想力トレーニング 一つの題材についてどこまで発想を膨らませられるか
【前期】 6～10回目	読解力トレーニング 台本の原稿から何を読み取るか
【前期】 11～15回目	台本を使用して演技におけるメソッド 体感について
【前期】 16～21回目	瞬発力トレーニング/対応力強化 相手との芝居のやり取りについて
【後期】 22～40回目	今までの内容を踏まえ、以降は台本を変えての演技指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	演技とは、自分と相手が居て成り立つものです。自分の考えだけに捕らわれず、視野を広く持ってください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	表現応用講座A		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1997年より声優として活動開始。その後主にアニメ、ゲーム、洋画の吹き替え等で活躍中。また、女優としての活動経験もあり。				
授業概要					
役を演じるために必要な読解力、表現方法を学ぶ。					
到達目標					
台本に書かれた内容を読み取り、時代背景や世界観、役柄に合わせた演技ができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	自分自身との向き合い方について 自分の表現したいイメージと、他人が受ける印象のギャップについて
【前期】 6～10回目	自己PR 役を演じる上での発声・息の出し方・その時の身体の使い方について
【前期】 11～15回目	台本を使用しての表現方法について ・教室ではなく、どこに立っているのか ・何を感じて、どう思っているのか
【前期】 16～21回目	相手の台詞を聞いて返すこと
【後期】 22～26回目	台詞にある感情 表現する為に必要なこと 演じる上でどのような知識が必要か
【後期】 27～31回目	物語の流れを読み取る 起承転結
【後期】 32～39回目	感情表現について
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	自分の思っている形だけではなく、相手の演技も含めて作品は出来上がります。 相手との距離感や、やり取りなどの上で自分の役を作るように心掛けましょう。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アフレコⅡ-A		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験15年 声優としてアニメ・ゲーム・ドラマCDなどで活躍する。また、ナレーションも務めるほか、イベントの司会や舞台にも出演しさまざまな分野で活動する。				
授業概要					
作品毎に様々な世界観の存在するアフレコにおいて、それぞれ世界観におけるアフレコのノウハウを学びます。					
到達目標					
どのような世界観の作品にも対応出来る力、及び応用力を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	世界観毎のアニメ・外画・ゲームにおける演技の方法について
【前期】 6～10回目	世界観を明確化したアフレコの題材を使い、実際にその世界観に沿った演技の方法を学ぶ。また、授業内で行うアフレコを繰り返し収録、確認する。
【前期】 11～21回目 【後期】 22～39回目	上記内容を繰り返し練習。 授業毎にフィードバックを行い、改善点の確認。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	アフレコはグループで1つの作品を作っていく作業の為、1人の遅れが全体の遅れに繋がる。故に、事前の台本の読み込み等を徹底する事。 また、台本の取り扱いには充分注意すること。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	演技応用 A		授業形態 / 必・選	実習	必修					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2 単位					
科目設置学科コース	声優養成コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験45年 1977年俳優としてデビュー。1980年代以降、主に声優として活躍。複数の国民的アニメへの参加他、出演作多数。									
授業概要										
台本を使用し、対話による演技の方法論を学ぶ										
到達目標										
衣装や道具がなくても、心情や感情を表現できるようになることを目標とする。										

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	台本を使用しての演技指導 二人一組となって、対話を中心に演技を行う
【前期】 6～10回目	心情や感情の動きの考察 役になりきるには何が必要なのかを考える
【前期】 11～15回目	耳だけでリスナーに理解させるための演技について
【前期】 16～21回目	演技の間、リズム、テンポについて
【後期】 22～40回目	前期の内容を踏まえ、以降は台本を変えての演技指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	芝居とは言葉遊びではありません。心情や感情をどう動かせるかで、その役は生きてきます。自分が演じる役柄に真剣に向き合ってください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	声優歌唱Ⅱ-A		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験17年 コンポーザー・アレンジャー。有名アイドル作詞楽曲の作曲を代表に、参加楽曲多数。				
授業概要					
音楽理論を交え、知識も含めて歌唱方法を学ぶ。					
到達目標					
感覚のみで歌うのではなく、理論的解釈をした上で歌えるようになることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	授業内容の説明 音域チェック、音感チェック 課題曲決め
【前期】 6～10回目	発声練習 音感強化
【前期】 11～15回目	音楽理論（全音と半音） リズム強化（音符の種類、拍数）
【前期】 16～21回目	音楽理論（＃がつくkey） リズム強化（音符と休符の種類、指数）
【後期】 22～26回目	音楽理論（bがつくkey） リズム強化(BPMの違う様々なトラックに合わせて譜面通りに声を出す)
【後期】 27～31回目	音楽理論（短調編） リズム強化
【後期】 32～36回目	移調 異性ボーカルの曲を原曲キーで歌い、キーボードで使われている音や上下を調べながら自分の音域に合わせる練習。
【後期】 37～40回目	個人歌唱指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	理論を学ぶとなると難しいと感じることもありますが、音楽を学ぶ上では必要なことですので、練習しながら習得しましょう。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	アフレコⅡ-B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 劇団所属を経て、声優事務所に所属。アニメ、ゲーム、洋画の吹き替え等で、様々な役を務め、現在も活躍中。				
授業概要					
アフレコや吹き替えを行いながら、現場で必要となるスキルと演技を学ぶ。					
到達目標					
演技面もスキルアップはもちろん、現場での立ち廻り方法を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	基礎力の確認 ①ストレッチ ②発声 ③外郎売り ④滑舌（サ行、ラ行、リヤ行など）
【前期】 6～10回目	アフレコ（アニメ） 通し見、プレス、タイムコード合わせ、マイク前に立ちテスト
【前期】 11～15回目	アフレコ（アニメ） マイクワークについて（周囲への気遣いなど）
【前期】 16～21回目	アフレコ（アニメ） 相手の芝居を聴く 表現の大きい芝居をする
【後期】 22～26回目	吹替え アニメと吹き替えの違い
【後期】 27～31回目	吹替え キャラクターの作り方、息づかい、表情
【後期】 32～40回目	題材を変えて、アフレコと吹替え
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	マイクの前に立つと、どうしても自分の演技にばかり集中しがちですが、周りを見て、聞いて、気遣いができるような素晴らしい人になってください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリント・台本を配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	演技応用 B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験42年 数々のTVアニメ、ゲーム、洋画の吹替に出演し、現在も第一線で活躍中。 国民的アニメのメインキャストとしての出演歴有り。				
授業概要					
色々な題材を使用し、演者としての演技の応用を学ぶ。					
到達目標					
口先だけの演技ではなく、体全体からの演技というものを理解してもらう。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション（自己紹介・人となりを知る） 等身大で演じてみる
【前期】 6～10回目	ボリュームに頼らず、ちゃんとニュアンスをセリフに乗せる事を意識する 恥ずかしさを取り去る / キャラクターを作る
【前期】 11～15回目	台本を使用し、身体を使った演技 その瞬間瞬間湧き出す感情にフォーカスし、その感情をいかにして表現するか
【前期】 16～21回目	1つの台本を自分なりにアレンジし、自身の演技を反映しながら演じる
【後期】 22～40回目	前期の内容を踏まえ、様々な台本を使用しての演技指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	恥ずかしがったり、小さくまとまらずに、卒をはみ出すことを意識してください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校E S Pエンタテインメント東京

授業科目名	タレント実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習		必修
			年次	2年次		
授業時間	180分（1単位時間45分）	年間授業数	6回（24単位時間）	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	芸能タレント科 声優養成コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等における対応、現場における進行の様子・作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。						

授業計画・内容	
1回目～5回目	E S P 学園主催イベント①～⑤
6回目	年度末公演
評価方法	平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	表現応用講座B		授業形態 / 必・選	講義	選択必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験45年 俳優としてテレビドラマや舞台にも積極的に出演。声優活動では洋画の吹き替えが中心であるが、アニメ・ゲームにも多く出演。				
授業概要					
「キャラクターを演じる」ことの方法論を学ぶ。					
到達目標					
声の仕事で必要となることの応用を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	台本の読み方、キャラクターの作り方 マイクワークとは アニメと外画の違い
【前期】 6～10回目	アニメのアフレコとは アフレコに必要な作業について タイムコードについて
【前期】 11～15回目	キャラクターや設定と変えての演技について
【前期】 16～20回目	キャラクターをしっかりとイメージする（体型・年齢・性格…等） 台詞の意味合いをしっかりと考える
【後期】 21～25回目	外郎売り 色々なバージョンで口演する
【後期】 26～30回目	アフレコ（アニメ）についての方法論
【後期】 31～35回目	アフレコ（外画）についての方法論
【後期】 36～40回目	ウェブラジオについての方法論
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	声優というのはアニメの仕事だけではなく、さまざまな仕事があります。 キャラクターを演じるためには色々なことを考えなければいけません。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	声優アーティスト総合講座		授業形態 / 必・選	講義	選択必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験10年 インフルエンサーとしてTikTokフォロワー数28万人、国内外の各種イベント出演や全国雑誌モデル、FMラジオのパーソナリティー等で活動。				
授業概要					
昨今、人前に出る機会の多い声優という職業において、「自己発信」という点にフォーカスをあて、SNSでの方法論・自分自身の磨き方、自己発信を行う上でのコンプライアンス等について総合的に学ぶ。					
到達目標					
授業内で学んだ事を実践し、個人活動や将来の声優アーティストとしての活動に活かす。					

授業計画・内容	
【前期】 1～10回目	自己紹介。今後の授業の説明。 SNS社会におけるコンプライアンスについて。
【前期】 10～15回目	自信を魅力的に見せる為の美容・健康について。
【前期】 16～21回目	SNSを使用した自己の発信方法について（概論）
【後期】 22～31回目	SNSを使用した自己の発信方法について（Youtube Shorts / TikTok / instagram等）
【後期】 32～40回目	SNSを使用した自己の発信方法について（実践）
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	単に知識として情報を得るだけではなく、活動の中でそれを実践していくという意識を持って授業に臨むこと。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ナレーション応用（発声&滑舌）		授業形態 / 必・選	実習	選択必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験35年 元アナウンサー。リポーターやキャスターとして活躍。ラジオでは有名女優のアシスタントを務めたのをはじめ多数出演し、パーソナリティーとしてレギュラーで活躍した。				
授業概要					
発声、滑舌、鼻濁音、撥音、促音、拗音、無声化などの練習を行い、正しい日本語を身につける。					
到達目標					
原稿を正しく読むだけでなく、対象となる相手に内容を正しく伝えられるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	発声練習の基礎 息を長くする練習・長音 滑舌練習
【前期】 6～10回目	鼻濁音 撥音・促音・拗音
【前期】 11～16回目	早口言葉 ナレーション
【前期】 17～21回目	ラ行とリャ行例文で練習 短いナレーションに挑戦
【後期】 22～26回目	1分間トーク 聞く事の大切さ
【後期】 27～31回目	フリートーク お客様への注意事項のナレーション 正しく読む、誰に伝えるのかよく考える
【後期】 32～36回目	音の無声化 ナレーション BGMにのせて喋ってみる
【後期】 37～39回目	人に届ける読み 聞く人が想像する「間」
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	ナレーションとは原稿を読むだけでなく、どのようなシーンで、誰に届けるのかを考えて喋ることが肝要です。
使用教科書	特になし。講師による実演で授業を行います。

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ダンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優アーティストコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験27年 ダンススタジオ主宰、イベント、テーマパーク・ショー等のダンサー出演振付、振付アシスタントとして活動。				
授業概要					
リズムに合わせて体を動かす。その為に必要な筋力トレーニングやストレッチも行う。					
到達目標					
色々なジャンルでの基本的な振付を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ストレッチ、筋力トレーニング、リズムトレーニング
【前期】 6～10回目	アイソレーション
【前期】 11～15回目	アイソレーションを取り入れて、振付の練習
【前期】 16～21回目	曲に合わせての振付練習
【後期】 22～39回目	前期の内容を、曲を変えて振付練習。 個人、グループでの振付練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	ダンスは日々のトレーニングの積み重ねなので、怠らずに頑張ってください。
使用教科書	必要に応じて適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ナレーション応用（実技）		授業形態 / 必・選	実習	選択必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	声優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 劇団に所属し、退団後声優養成所を経て声優として活動。多くの洋画の吹き替えやT V 番組ナレーション、アニメ、ゲームに出演。				
授業概要					
TV番組、TVCM等の題材を使い、ナレーションを通して相手にイメージーションを与える為のノウハウを学びます。					
到達目標					
ナレーションの現場に対応する為の応用力の習得を目標とします。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション ・ナレーションとは何か ・ナレーションにおける表現 ・原稿の読み方
【前期】 6～10回目	表現力の構築 ・聞き手がナレーションからイメージを膨らませられるか
【前期】 11～15回目	テレビナレーション ・映像作品におけるナレーションの載せ方、ノウハウを学ぶ
【前期】 16～19回目	ラジオナレーション ・映像が無い状態から、聞き手のイメージーションを膨らませる為のノウハウを学ぶ
【後期】 20～39回目	上記内容を繰り返し練習。 授業毎に録音・フィードバックを行い、ナレーションの精度を高めていく。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年次に学んだ内容を踏まえ、より発展的な技術を学んでいきますので、毎回の授業の復習を徹底しましょう。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	声優歌唱Ⅱ-B		授業形態 / 必・選	実習	選択必修					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2単位					
科目設置学科コース	声優養成コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験17年 数々のミュージカルの舞台に立ち、ボーカルユニットではツアーやレコーディングなど精力的に活動。現在はボイストレーナーとして、「疲れない声の使い方」を重点的に指導。									
授業概要										
歌を歌う為に必要なトレーニングを行う。										
到達目標										
歌唱に必要な基礎技術(呼吸、発声、姿勢、リズム、など)を習得する。										

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	発声について 基本の発声、ハミング、裏声、音階トレーニング
【前期】 6～10回目	個人歌唱指導
【前期】 11～15回目	ブレスについて スタaccartについて、個人歌唱指導
【前期】 16～21回目	ステージにおけるパフォーマンスについて マイクの持ち方、個人歌唱指導
【後期】 22～39回目	課題曲、自由曲にて個人歌唱指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	歌を上手に歌う為には、歌の練習よりも基礎練習が大切です。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時プリントを配布。